



秋豊帖 松の巻より
右：青漢変化笹葉藤紅花笠采咲牡丹（明治四十二年）
左：青雨龍葉納戸鳥甲噴上車咲牡丹（明治四十二年）
秋豊帖とは、明治末期東京朝顔研究会の有力会員の一人であった、小野英之助の画号による。
著者は同会所属の絵師、高輪其堂である。変化朝顔図の名人と思う。 亮軒記

花かがみ

HANA-KAGAMI

19 8

発行人/小笠原 聖 発行所/名古屋朝顔株式会社
〒460-0005 名古屋市中区東郷2-18-13 tel. 052-931-8701
http://nagoyaenget.co.jp/

名ふ屋園 葵

お盆と植物のかかわり



爽やかなホワイトアンズリウムのアレンジ ¥4,000+税



ピンクアンズリウムのトロピカルブーケ ¥4,000+税

バースデーフラワー

～アンズリウム～



パープルアンズリウムのモダンアレンジ ¥5,000+税

日差しもますます強くなり、暑さ厳しい季節になりました。そんな夏本番を迎える8月におすすめのバースデーフラワーにアンズリウムはいかがでしょう。
アンズリウムとはサトイモ科の多年生植物で、鮮やかな色と個性的な形が特徴の花です。西インド諸島、熱帯アメリカに約600以上の種類が分布しています。

お皿のような仏炎苞（ぶつえんぼ）と呼ばれる部分に、赤やピンク、白、紫、緑などの色をつけ、中心に見えるひも状の部分は肉穂花序（にくすいかじよ）といい、花を多数つけています。厚みがあり、ロウのような光沢のある苞は、ハート型や卵型、細長くのがつたものなど形も様々で、色も1色ではなくグラデーションのようにもなるものもあり、種類が豊富なのも特徴です。肉穂花序も種類によって色が異なります。見た目の華やかさもさることながら、日持ちも大変良く、この時期のインテリアを彩る植物としてとてもおすすめです。
また、ハワイではアンズリウムのことを「アヒメアヒメ」という名で呼び、パレタインデーに贈る花として親しまれているそうです。花言葉も「情熱・熱心・飾らない美しさ」などポジティブなものが並びます。シンブルで少し個性的なアンズリウムのブーケ。アレンジにプラスしてモダンな雰囲気漂うフラワーギフト。今月はアンズリウムでコーディネートしたバースデーギフトがおすすめです。

information

2019年10月～2020年3月『花の講座』のパンフレットが出来上がりました

これからの季節はハロウィン、クリスマス、お正月と大きなイベントが続きます。自分で作ったアレンジメントや寄せ植えを飾れば、それぞれの季節をより一層楽しむことが出来ます。常に花と接している店頭スタッフが講師として担当しますので、楽しくおしゃべりしながら「旬」の花々と楽しんでみてはいかがでしょうか。
店頭でパンフレットをお配りしております。また名古屋園芸HPからでもカリキュラムの内容をご覧いただけます。お陰様で受講希望者の方も増え、人気の講座はすぐに定員に達してしまう場合がございますので、お早目のお申し込みをおすすめいたします。



お申し込みは
花の講座専用電話 TEL: 052-937-3391
受付時間 月～金曜日 9:00～17:00
Webでのお申し込みは24時間OK!

名古屋園芸 検索 はこちらからもどうぞ

この作品が描かれた頃は、江戸、大阪、京都など三都を始め、各地で朝顔作りが流行した時代と符合する。なかでも変化朝顔が一般化したのであろう、画面に描かれている朝顔七鉢の内三鉢は、雄しべが弁化した八重咲種で明らかに変化朝顔である。また植えられた鉢は、瀬戸焼の広つばであり、当時大量

生産されて江戸へ運ばれた鉢と見受けられる。さて、作品の題名「当世名物鹿子」とは「現代流行の鹿子」という意で、鹿子は何を意味するのか、この一作品を見ただけでは判別できかねる。続く「根岸の笹の雪」とは現東京台東区根岸の根岸を指し、笹の雪は、当時根岸で盛業であった豆腐屋だそうである。

目覚めに女性はしどけない姿で、寝起きの身繕いをしている。床には花菱紙が敷かれ、襦袢がパサッと散らかり、横には煙草盆の火入や吐月峰（灰吹）が出され、本体は横倒しとし、上にはこにも襦袢が置かれていたところを見ると、枕替りに使用したのであろうか。浮世絵を眺み解くのはむづかしい。



花の博物館 第283回

当世名物鹿子・根岸の笹の雪
愛媛美奈園 山口屋福兵衛
文化十二年〜天保十三年（一八一五〜一八四二）版
小笠原左衛門亮軒

まつりのあとに ~名古屋葵朝顔祭~



ポリウム満点の朝顔が季節を感じる贈り物として選ばれました。



大輪の朝顔。コンパクトな鉢に存在感のある花が見事に咲き誇っていました。

名古屋園芸夏の象徴、朝顔小屋です。風鈴の音が涼しげですよね。



日本の朝を象徴する花の一つである朝顔。
当店で開催してまいりました「名古屋葵朝顔祭」は今年で4回目を迎えました。正面玄関前の朝顔小屋へ足を運んでいた方、ありがとうございます。お中元として季節ものである朝顔を贈られた方も多くいらつしやいました。お届け先様にも皆様の日頃の感謝が爽やかな色味・質感、風が吹かれる風鈴の音で皆様様に涼し気な雰囲気を感じていただけたら幸いです。
奈良・平安時代には朝顔ブームを巻き起こしました。現在「変化朝顔」と呼ばれている一風変わった朝顔は当時、高値で取引されるなど相当の朝顔熱があったようです。八重咲のもの、花弁や葉がとがったものなど様々な「変化朝顔」が生みだされる

うちに無数の系統が生み出され朝顔は日本で改良技術が最も確立された植物の一つとなり、世界的に見てもこれほど形態が変化した園芸植物は珍しいとされています。
店内でも展示させていただいております。た「名古屋朝顔」は100年もの歴史を持つ大輪の朝顔で、正式名を「名古屋式盆養切込み作り大輪朝顔」といいます。一般的な朝顔とは異なるツルを伸ばさずコンパクトに仕立てられた株は、大きく咲く花を引き立ててくれます。夏の朝の風物詩である朝顔、華やかな花は暑過ぎにはおれられてしまいます。そんなお花も存在感のある大輪の朝顔をお楽しみいただけたのではないのでしょうか。
今年の「名古屋葵朝顔祭」は終了となりますが、また来年の7月上旬にこの朝顔小屋にて皆様をお迎えいたします。